2　作物別施肥基準量

（1）水稲・麦類

作物名	栽培型又は作型	品種名	栽培様式	対象地域	作型模式図 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	目標収量(kg/10a)	適正pH	施肥量（kg/10a） 成分	基肥	追肥 時期	追肥 施用量	成分合計	堆肥及び土づくり資材等の施用例（10a当たり）	備考
水稲	早植栽培（稚苗）	コシヒカリ	㎡当たり20～22株	北部（山間）				○	×―	―	―	―	□				520	6.0～6.5	N P_2O_5 K_2O	3～4 12 9	-15	3程度 3程度	6～7 12 12	・モミガラ牛ふん堆肥を500～1,000kg施用する。 【この場合、左の基肥から 窒　素：0.9～1.7kg りん酸：4.7～9.3kg 加　里：4.5～8.9kg を差し引く】 ・けいカルを 中部（黒ボク） ８０kg 北部（山間） 北部（黒ボク） １００kg 南部（沖積） １６０kg 施用する。	1.可給態りん酸の少ない（乾土100g当たり10mg以下） 水田では、ようりんを80～120kg/10a施用する。 2.稲わらをすき込む場合は、分解促進のため、石灰窒素10～20kg/10aを施用する。石灰窒素を連用しているほ場では基肥窒素を減らす。 3.堆肥は、牛ふん堆肥の場合、乾田では0.5～1t/10a、半湿田では0.5t/10aを基準とする。 4.加里肥料の追肥は、出穂前40～45日頃に加里成分で4～5kg/10a施用する。 5.追肥（穂肥）は、生育診断により時期・量を決める。肥料は、緩効性肥料入りの１回施用を基本としている。 6.標高350m以上の分げつの確保しにくい地域では、窒素成分で1kg/10a程度増施する。
				北部（黒ﾎﾞｸ）				○	×―	―	―	―	□				540		N P_2O_5 K_2O	3～4 12 9	-15	3程度 3程度	6～7 12 12		
				中部（黒ﾎﾞｸ）				○	×―	―	―	―	□				540		N P_2O_5 K_2O	2～3 12 6	-15	3程度 3程度	5～6 12 9		
				南部（沖積）				○	×―	―	―	―	□				520		N P_2O_5 K_2O	2 9 6	-15	2～3 2～3	4～5 9 8～9		
		なすひかり		北部（山間）				○	×―	―	―	―	□				580		N P_2O_5 K_2O	4～5 15 8	-20	3程度 3程度	7～8 15 11		
				北部（黒ﾎﾞｸ）				○	×―	―	―	―	□				600		N P_2O_5 K_2O	4～5 15 8	-20	3程度 3程度	7～8 15 11		
				中部（黒ﾎﾞｸ）				○	×―	―	―	―	□				600		N P_2O_5 K_2O	4～5 12 6	-20	3程度 3程度	7～8 15 9		
		あさひの夢		中部（黒ﾎﾞｸ）				○	×―	―	―	―	□				600		N P_2O_5 K_2O	5～6 15 9	-20	3～4 3～4	8～10 15 12～13		
				南部（沖積）				○	×―	―	―	―	□				580		N P_2O_5 K_2O	5～6 10 8	-20	3～4 3～4	8～10 10 11～12		
		とちぎの星		中・北部				○	×―	―	―	―	□				630		N P_2O_5 K_2O	4～5 15 9	-20～-15	2～3 2～3	6～8 15 11～12		
				南部				○	×―	―	―	―	□				630		N P_2O_5 K_2O	4～5 10 8	-20～-15	2～3 2～3	6～8 10 10～11		

作物名	栽培型又は作型	品種名	栽培様式	対象地域	作型模式図 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	目標収量(kg/10a)	適正pH	施肥量(kg/10a) 成分	基肥	追肥 時期	追肥 施用量	成分合計	堆肥及び土づくり資材等の施用例(10a当たり)	備考
水稲	普通植栽培(稚苗)	コシヒカリ	㎡当たり20～22株	中部(黒ボク)					○	×―	―	―	―	□			480	6.0～6.5	N P_2O_5 K_2O	1～2 12 6	-15	|～2 1～2	2～4 12 7～8	・モミガラ牛ふん堆肥を500～1,000kg施用する。 【この場合、左の基肥から 窒　素：0.9～1.7kg りん酸：4.7～9.3kg 加　里：4.5～8.9kg を差し引く】 ・けいカルを 中部（黒ボク） 80kg 北部（山間） 北部（黒ボク） 100kg 南部（沖積） 160kg 施用する。	1.可給態りん酸の少ない（乾土100g当たり10mg以下）水田では、ようりんを80～120kg/10a施用する。 2.稲わらをすき込む場合は、分解促進のため、石灰窒素10～20kg/10aを施用する。石灰窒素を連用しているほ場では基肥窒素を減らす。 3.麦跡で麦ワラをすき込む場合は、初期の窒素飢餓を防ぐため、窒素成分で1～1.5kg/10aを増施する。 4.堆肥は,牛ふん堆肥の場合、乾田では0.5～1t/10a、半湿田では0.5t/10aを基準とする。 5.加里肥料の追肥は、出穂前40～45日頃に加里成分で4～5kg/10a施用する。 6.追肥（穂肥）は、生育診断により時期・量を決める。肥料は、緩効性肥料入りの１回施用を基本としている。
				南部(沖積)					○	×―	―	―	―	□			460		N P_2O_5 K_2O	2 7 5	-15	|～2 1～2	3～4 7 6～7		
		あさひの夢	㎡当たり22～24株	中部(黒ボク)					○	×―	―	―	―	□			540		N P_2O_5 K_2O	5～6 10 7	-18～20	2～3 2～3	7～9 10 9～10		
				南部(沖積)					○	×―	―	―	―	□			540		N P_2O_5 K_2O	5～6 8 7	-18～20	2～3 2～3	7～9 8 9～10		
		とちぎの星	㎡当たり22～24株	中部					○	×―	―	―	―	□			570		N P_2O_5 K_2O	3 10 7	-15	2～3 2～3	5～6 10 9～10		
				南部					○	×―	―	―	―	□			570		N P_2O_5 K_2O	3 8 7	-15	2～3 2～3	5～6 8 9～10		
	直播栽培(湛水直播)	コシヒカリ	条播又は打込式	中・北部					○	―	―	―	□				480		N P_2O_5 K_2O	1～2 12 6	-10	1～2 1～2	2～4 12 7～8		1.施肥量は地力により加減する。 2.穂肥は移植栽培より5日程度遅らせる。
		なすひかり		中・北部					○	―	―	―	□				500		N P_2O_5 K_2O	3～4 12 6	-15	2～3 2～3	5～7 12 8～9		
		あさひの夢		中・南部					○	―	―	―	―	□			500		N P_2O_5 K_2O	3～4 10 8	-15	2～3 2～3	5～7 10 10～11		

（注）

1 前作物がある場合の水稲の基肥施肥量

水稲で前作物がある場合は、下表により基肥施肥量を加減する(いずれも土壌改良が実施済みの水田を基準とする)。

前作物	基肥に対する施肥割合(%)			備考
	N	P_2O_5	K_2O	
たまねぎ	25～30	100	100	1 耐倒伏性、晩植適応品種の選定。 2 春どりキャベツは外葉を搬出する。 3 水管理には特に注意する。 4 けいカルを160kg/10a程度施用
キャベツ	0～25	100	100	
なす				
いちご	0～50	100	100	
大豆	50～70	100	100	コシヒカリでは窒素を30%とする。
イタリアンライグラス	100～110	100	100	1 すき込み後、直ちに湛水する。 2 水管理には特に注意する。 3 けいカルを160kg/10a程度施用する。

2 保全管理水田の復田

代かき湛水状態で保全管理をしていた湿田や、湛水状態で雑草が生えていた乾田では、地力窒素を温存しているため、復田すると窒素の発現が多いことから、次の点に留意する。

ア 地力窒素の発現量を推定するのが困難であるため、耐肥性が強い品種を作付けする。

イ 保全管理3年以内の水田の復田では、基肥窒素を20～ 30%減肥する。

ウ 保全管理3年以上の水田の復田では、基肥無窒素で栽培する。

エ 土壌診断に基づき可給態りん酸10mg/100g以上になるように、ようりんを施用する。土壌診断ができない場合には、ようりんを150kg/10a程度施用する。特に、黒ボク土の水田では必ず実施する。

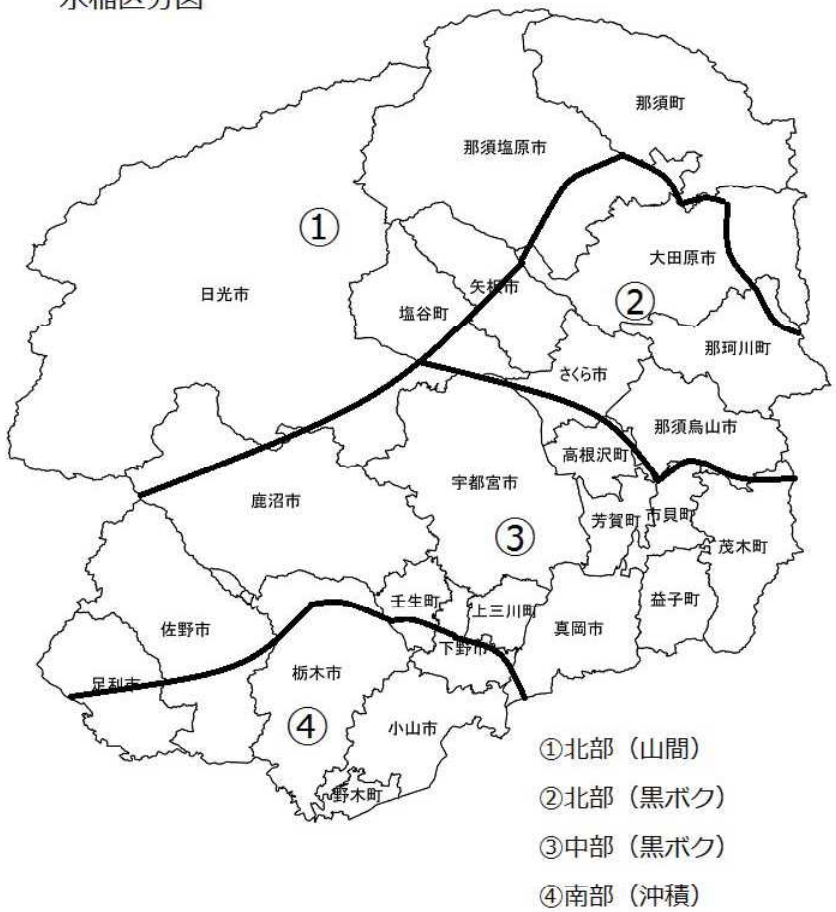
オ 畑状態・無作付けで管理していた乾田では、漏水防止のため代かきをていねいに行う。また、有機物が分解し地力の消耗があるので、堆肥を1,000kg施用する。

雑草が極めて多い荒れた水田では、次の点に留意する。

ア 雑草を刈り取り、ほ場外に搬出する。

イ プラウ耕を実施する。

水稲区分図



作物名	栽培型又は作型	品種名	栽培様式	作型模式図 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
陸稲	普通期栽培	トヨハタモチ	条播 畦幅 60cm				○					□			
		ゆめのはたもち					○						□		
二条大麦	ﾄﾞﾘﾙ播栽培	ｻﾁﾎｺﾞｰﾙﾃﾞﾝ ﾆｭｰｻﾁﾎｺﾞｰﾙﾃﾞﾝ	8.5kg						□					○	
		ｱｽｶｺﾞｰﾙﾃﾞﾝ	6.5～ 7Kg						□					○	
		とちのいぶき	8Kg						□					○	
六条大麦	ﾄﾞﾘﾙ播栽培	シュンライ	7Kg						□					○	
小麦	ﾄﾞﾘﾙ播栽培	ｲﾜｲﾉﾀﾞｲﾁ さとのそら	7～ 8Kg						□					○	
		タマイズミ	7～ 8Kg						□					○	
		ゆめかおり	7～ 8Kg					①	□					○	

目標収量(kg/10a)	適正pH	施肥量(kg/10a) 成分	基肥	追肥 1回目	追肥 2回目	成分合計	堆肥及び土づくり資材等の施用例(10a当たり)	備考
240	5.5～6.0	N P_2O_5 K_2O	4 7 6	2 2	2 2	8 7 10	・モミガラ牛ふん堆肥を500～1000kg施用する。 【この場合、左の基肥から 窒素：0.9～1.7kg りん酸：4.7～9.3kg 加　里：4.5～8.9kg を差し引く】	
260		N P_2O_5 K_2O	5 8 6	2 2	2 2	9 8 10		
400～420	6.0～6.5	N P_2O_5 K_2O	6.5～8.0 13 11			6.5～8.0 13 11	・オガクズ牛ふん堆肥を1,000kg施用する。 【この場合、左の基肥から 窒　素：0.7kg りん酸：4.0k 加　里：8.2kg を差し引く】 ・苦土炭カルを60～100kg施用する。	1.土壌条件に適した専用肥料を施用する。 2.生わら分解促進に石灰窒素(10Kg)を施用するときは、基肥窒素は1Kg程度減ずる。 3.施肥量は次により加減する。 ア砂質地10～20%増 イ大豆あと30～50%減
		N P_2O_5 K_2O	5.5～6.5 13 11			5.5～6.5 13 11		
		N P_2O_5 K_2O	6.0～7.5 13 11			6.0～7.5 13 11		
450	6.0～6.5	N P_2O_5 K_2O	6～7 13 11			6～7 13 11	・オガクズ牛ふん堆肥を800kg施用する。 【この場合、左の基肥から 窒　素：0.6kg りん酸：3.2kg 加　里：6.6kg を差し引く】 ・苦土炭カルを60～100kg施用する。	二条大麦に準じる
420～450	6.0～6.5	N P_2O_5 K_2O	10～11 13 11			10～11 13 11	・オガクズ牛ふん堆肥を800kg施用する。 【この場合、左の基肥から 窒　素：0.6kg りん酸：3.2kg 加　里：6.6kg を差し引く】 ・苦土炭カルを60～100kg施用する。	地力の低い砂質土及び暖冬多雨年には、2月下旬～3月上旬に窒素成分で2～4Kgを追肥する。
480		N P_2O_5 K_2O	11 9 9			11 9 9		1.専用基肥肥料を施用する。 2.出穂期の葉色が淡い場合には開花期頃に窒素成分で2～4kgを追肥する。
450		N P_2O_5 K_2O	12 9 9	2～4		14～16 9 9		1.専用基肥肥料を施用する。 2.開花期頃に追肥を行う。なお、出穂期の止葉の葉色が濃い場合や穂数が多い場合は追肥を控える。